第４５回少年の主張秋田県大会　**最優秀賞**

　　 大館市立比内中学校

　　　　　　２年　萬　田　花　歩

　　　 ＡＩと一緒に

　最近、ＡＩ（人工知能）という言葉があちこちで聞かれるようになりました。数多くの情報を取り入れ、一瞬でどんなことにでも答えてくれる、このＡＩをあなたはどう思っていますか。便利だから、難しいことは何でも任せて、やってもらおうと思っていませんか。でも、果たしてそれでよいのでしょうか。

私がこのことを考えたきっかけが、ある日の夕食の時のニュースでした。

「アメリカ投資銀行のゴールドマン・サックスは、三億人分のフルタイムの仕事が、ＡＩによって取って代わられる可能性がある、との報告書を発表しました」

これを聞いた弟は、「ＡＩって、すごいねえ」と感動していました。

しかし、私は次の瞬間、母から心に突き刺さるような一言を言われてしまったのです。

「でも、花歩の医者の夢もとられちゃうんじゃない。」

ぞっとしました。私の夢は、多くの患者さんを救う医師になることです。その夢が、ＡＩによって奪われてしまう。その夜、私はＡＩについて、ずっと考えていました。

　ＡＩは、私たち人間がはるかに及ばない処理能力をもっています。私が今がんばって勉強している式の計算も、たくさんの化学反応式も、年表の人物だって、ＡＩはすぐに分かってしまいます。私がなりたい医師の、患者さんの症状を元に、何の病気かと判断するという難しい仕事であっても、ＡＩは膨大なデータベースを使って一瞬で判断してしまいます。人間なんてかないっこありません。

　「では、ＡＩは優れた医師になれるのか」私の答えは「ＮＯ」です。医師に、人間に必要な力は、計算する力、暗記する力だけではありません。人の思いを考える力も、とても大切です。

　そう思うと、ＡＩに負けている「偏差値」よりも、もっと深刻な問題に思いが至りました。それは「読解力の低下」です。皆さんは知っていますか。今、日本では、「教科書を読めない子ども」が増えているそうです。文字は読めますが、「本当の意味で読める」に当てはまる人は少ないのです。神様が私たちにくれた、ＡＩにはない能力。それは、登場人物の気持ちになって、筆者の気持ちになって本を読むことができるという「心」です。誰かの気持ちになって考えるという心の大切さは、本の中だけではありません。学校生活の中でも、社会に出てからもとても大切なことです。

　もし、ＡＩが高い知性ゆえに医師免許試験に受かったとします、そうしたら、医師の仕事は減って楽になるかもしれません。でも患者さんはそれで安らかな気持ちになれるでしょうか。ＡＩは、人間の医師のように、患者さんの心を理解しようとはしません。患者さんの苦しみや心を、ただ活字で表すだけでやめてしまいます。相手の心を理解するというのは、ＡＩに医療知識で負けても、医学を進歩させ、患者さんを救うことを諦めずにきました。

　ＡＩにはたくさんの優れた良さがあります。でもそれと同時に私たち人間にも優れた良さがたくさんあります。そう思ったら私のＡＩに対する思いは、次のように変わりました。

　ＡＩの発達でなくなる仕事を目指すのは、諦めろとか、生き残る仕事をしろということにとらわれてはいけない。これからどう発展するか分からない時代に生きる私たちは、ＡＩに依存するのでもなく、ＡＩを拒絶するのでもなく、共に生きる。これが大切。そのために私たちは読解力を身に付けなければなりません。そして、相手の心を理解した上で、ＡＩを道具として使い、一度きりの人生を充実したものにしていきましょう。

　翌朝、私は母にいいました。

「私、ＡＩと一緒に生きてみる。」